

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00637

研究課題名(和文)日本語オノマトベの原理的考察と記述的分析

研究課題名(英文)A Principled Consideration and Descriptive Analysis of Japanese Onomatopoeia

研究代表者

小野 正弘 (ONO, Masahiro)

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：90177270

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本語オノマトベの認定について、外国語学、日本語史、日本語方言研究の各分野から、知見と認識を深めることができた。特に、「なめとこ山の熊」を題材に、日本語学会ポスター発表で行った、今回のメンバーのうち3名(小野・竹田・川崎)が、各人の認定基準によって、オノマトベを認定したところ、認定における差異が生じたというテーマは、発表後の質疑応答も極めて活発で、一定のインパクトを与えられたと考えられる。

また、メンバー各人も、古典語におけるオノマトベ認定の問題、「オノマトベ」という学術用語の成立、方言や方言民話におけるオノマトベ認定の問題について、研究成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

オノマトベの認定については、従来、あまり意識的に考察されたとは言いがたく、かなり直観的なものであった。たとえば、「あっさり」は各種オノマトベ辞典に掲載されているが、形容詞「浅い」の語幹から形成されている。もともと一般語であっても、たとえば、「いらいら」は、現代語においてオノマトベであるという意識が高いということもあるので、もともと一般語であっても、オノマトベと認定できて構わないのであるが、その認定根拠がどのようなものかを示す必要があるのである。その認定の過程と、認定方法について、一定の寄与を行うことができた。

研究成果の概要(英文)：We could deepen our knowledge and awareness of the certification of Japanese onomatopoeia from the fields of foreign linguistics, Japanese history, and Japanese dialect research.

In particular, three of the members (Ono, Takeda, and Kawasaki) of this year's poster presentation at the Society for Japanese Linguistics on the subject of Kenji Miyazawa's "Nametokoyama no Kuma" by recognized the onomatopoeia according to their own certification criteria. The question and answer session after the presentation was extremely lively, and it is thought that the theme of the difference in accreditation had a certain impact.

Each member also presented their research results on the issue of onomatopoeia recognition in classical Japanese, the formation of the academic term "onomatopoeia", and the issue of onomatopoeia recognition in Japanese dialects and its dialect folktales.

研究分野：日本語史(語彙・意味)

キーワード：日本語オノマトベ 日本語オノマトベ認定の原理 日本語方言オノマトベ オノマトベの対照的研究
日本語オノマトベの史的研究

1. 研究開始当初の背景

(1)オノマトペ(擬音語・擬態語)に関しては、近年、世界的な関心事となっていて、オノマトペが豊富な言語として従来知られてきた日本語、韓国語のほかに、西・南アフリカ、東南アジア、アマゾンなどの諸言語にも豊富に見つかるという報告がなされている。また、フランス西南部とスペイン東部に亘るバスク語にも 5000 語程度見出すことができるという報告もある。

(2)ところが、いざ諸言語のオノマトペの語数を比較しようとしたとき、オノマトペがどう認定・範囲確定されているのかが、実は、それぞれの報告において十分明らかになっていないという根本的な問題がある。そのため、例えば、オノマトペの語数は、日本語においては、4500 から 5000 とされ(小野正弘 2007『日本語オノマトペ辞典』)、上記バスク語では 5000 とされ(窪園晴夫編 2017『オノマトペの謎』)、また、韓国語でも 5000(同前)で一説には 8000 から 10000 あるとも言われているが、そもそも、どこからどこまでをオノマトペとしてよいかという認定・範囲画定が十分になされていないのに、比較することにどけだけの意味があるのかということになる。

(3)そこで、本研究課題の核心をなす学術的「問い」は、「どこからどこまでをオノマトペと呼ぶのか」ということである。

2. 研究の目的

(1)日本語に関して、どこからどこまでをオノマトペとするかについて、研究者間でも一致をみないという大きな問題が横たわっている。もちろん、だれから見てもオノマトペとして問題ない語群が存し、また、その周辺にオノマトペと言えるかどうかの認定が困難なものがあるという認識は、すでに共有されている。しかし、個別的な語のレベルで、それをオノマトペとするか否かについての原理的な省察ならびに意見交換は不足している。

(2)これらの状況をふまえて、本研究の目的として、第一には、「どこからどこまでをオノマトペと呼ぶのか」という問いに基づいて、オノマトペの認定・範囲確定をする際には、どのような共通理解が可能で、どのような点に認識の違いが出るのかを明らかにすることとした。

従来の研究では、研究者が、個別にオノマトペの認定・範囲確定を済ませてしまい、その際に認定・範囲確定の基準も必ずしも明示しないという状況が続いてきた。そのため、だれかがオノマトペであると認定してしまうと、後続の研究もそれを検証する機会もないまま、継承してきたという憾みがあったからである。

3. 研究の方法

(1)研究代表者の小野正弘は、全体の進行を統括するとともに、従来のオノマトペ研究論文でのオノマトペ認定・範囲確定に関する指摘を総合し、従来説では、どんなことが言われてきたのか、また、それは継承されているのかといった点の検証を行うとともに、問題点を整理する

共同研究者の角岡賢一は、自身の角岡賢一 2007『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』等で得られた、オノマトペの原理的知見に基づきながら、種々の文献におけるオノマトペについて、境界オノマトペ等についての再確認を行う。

共同研究者の中里理子は、特定の語が史的变化を遂げることで、オノマトペと解されるようになる現象の語史的解明を、「しみじみ」「つくづく」「とっくり」等の具体例に基づいて行って、どんな条件が見出されればオノマトペとして認識されているのかといった点に関する解明を行う

共同研究者の竹田晃子は、異なる方言間でオノマトペの所属認識はどういう異同を有するかという問題を解明し、特に、音韻的な方向からの、方言オノマトペの特性について分析と考察を深める。

共同研究者の川崎めぐみは、オノマトペには、玩具名の「がらがら」、幼児語の「ぶーぶー(自動車)」のように、一般語に遷るものがある一方で、その逆の場合、すなわち、一般語がオノマトペとして解される場合があることから(名古屋方言、東北方言に例があるとされる)、そのような現象についても考察を及ぼすことで、オノマトペの認定・範囲確定について寄与する研究を行い、また、民話におけるオノマトペの資料収集、ならびにデータ整理を通して、オノマトペの認定・範囲確定について処理困難な語を具体的に洗い出すことを行なう。

4. 研究成果

特筆すべき成果を、2点挙げる。

(1)2021年の日本語学会ポスター発表で、小野、竹田、川崎が、それぞれの立場から、宮澤賢治の童話「なめとこ山の熊」におけるオノマトペの認定を試みた。その結果、次のような知見が得られた。

竹田：81 語認定(延べ) 川崎：74 語認定(延べ) 小野：65 語認定(延べ)

この結果から、日本語オノマトペの認定は、研究者によって、かなり変動するという知見が得られた。しかし、このことは、オノマトペ認定が、研究者個々の主観によって、なんとでもなっ

てしまうということを意味しない。どのような基準によってオノマトペを認定するかということとで、差異が生じるのである。具体的には、たとえば、次のような差異である。

| | 冴え冴え | だんだん | ちょっと | やっと | もっと | しげしげ | ずうっと | がさがさ |
|---|------|------|------|-----|-----|------|------|------|
| A | × | | | | | | | |
| B | × | × | × | × | × | | | |
| C | × | × | × | × | × | × | × | |

すなわち、「冴え冴え」のようなものは、だれもオノマトペとは認定しないし、「がさがさ」は、だれでもオノマトペと認定するが、「だんだん」「ちょっと」「やっと」「もっと」「しげしげ」「ずうっと」等については、立場によって、認定上の差異が生じるのである。

このようなことは、これまで、明らかにされたことはなく、共通認識として、大きな成果だったと言ってよいと思われる。

(2)共同研究者の中里による、「とくと」「とくと」「とっくり」ならびに、「しかと」「しっかりと」「しっかり」、および、「しみじみ」「つくづく」の史的分析も、新たな知見を提示した。これらは、いずれも、一般語との関係性が考えられるものであり、特に、「しみじみ」「つくづく」などは、連濁している点、それぞれ、動詞「沁む」「尽く」との関連性が考えられることから、むしろ、簡単に、オノマトペとしての認定を放棄してしまうようなものである。が、種々の徴証をもってすれば、これらも、オノマトペとしての理解が可能となるということを示したという点において、特筆される成果であると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 148 |
| 2. 論文標題 「鼻が高い」考 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 文芸研究（明治大学） | 6. 最初と最後の頁 27-45 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 34 |
| 2. 論文標題 学術用語「オノマトペ」の成立 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 国語語彙史の研究 | 6. 最初と最後の頁 73-90 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 2023-6 |
| 2. 論文標題 オノマトペ辞典の特質 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 日本語学 | 6. 最初と最後の頁 2-9 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 中里理子 | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 [A ッ B リ] 型の語のオノマトペ認定に関する一考察 「てっきり」の場合 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 佐賀大 国語教育 | 6. 最初と最後の頁 52-65 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 32-1 |
| 2. 論文標題 上方落語の商家噺における待遇表現の社会言語学的分析 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報 | 6. 最初と最後の頁 1-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 44-2 |
| 2. 論文標題 上方落語の女性語における人物相関の社会言語学的研究 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 龍谷紀要 | 6. 最初と最後の頁 19-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 44-1 |
| 2. 論文標題 上方落語に見られる終助詞の語用論的分析 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 龍谷紀要 | 6. 最初と最後の頁 21-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 川崎めぐみ | 4. 巻 34(2) |
| 2. 論文標題 東北方言におけるオノマトペの対人評価的な使用について | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 名古屋学院大学論集 | 6. 最初と最後の頁 71-79 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15012/00001451 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 川崎めぐみ | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 咳とくしゃみの方言感動詞 オノマトペとの境界の言葉 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 全国調査による感動詞の方言学 | 6. 最初と最後の頁 223-242 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 竹田晃子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 困惑・諦め・苛立ちの言語表現にみる地域差 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 全国調査による感動詞の方言学 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 夏目漱石の語彙 『心』上 (先生と私) の漢語 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 シリーズ日本語の語彙 近代の語彙 | 6. 最初と最後の頁 45-55 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 近代語と近世語の境目、近代語と現代語の境目 漢字政策を軸として | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 論究日本近代語 | 6. 最初と最後の頁 327-339 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 43-1 |
| 2. 論文標題 上方落語に見られる卑罵語人称代名詞と一般名詞の語用論的分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 龍谷紀要 | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 43-2 |
| 2. 論文標題 上方言葉に見られる特徴的な音声的・音韻的变化について | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 龍谷紀要 | 6. 最初と最後の頁 15-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 31 |
| 2. 論文標題 上方落語に見られる終助詞の語用論的分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報 | 6. 最初と最後の頁 15-34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 中里理子 | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 [ABト]型から派生した[AyBリ]型のオノマトペ認定に関する考察・その1 「しかと」「しつかと」「しつかり」の場合 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 佐賀大学全学教養機構紀要 | 6. 最初と最後の頁 37-47 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 中里理子 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 [ABト]型から派生した[AッBリ]型の語のオノマトベ認定に関する考察・その2 「とくと」「とつくと」「とっくり」の場合 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 佐賀大國語教育 | 6. 最初と最後の頁 37-47 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 竹田晃子・有働玲子 | 4. 巻 20 |
| 2. 論文標題 昭和20・30年代の文集にみることばと表現 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 生涯学習研究所紀要 (聖徳大学生涯学習研究所) | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 川崎めぐみ | 4. 巻 114 |
| 2. 論文標題 オノマトベの意味・使用法の地域的差異 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 表現研究 | 6. 最初と最後の頁 20-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 40-01 |
| 2. 論文標題 マンガのオノマトベ 『名探偵コナン』96を対象に | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本語学 | 6. 最初と最後の頁 84-91 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 144 |
| 2. 論文標題 オノマトベのニュアンス付加 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 文芸研究 [明治大学] | 6. 最初と最後の頁 5-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 巻 229 |
| 2. 論文標題 みちのくの言葉から東北方言へ その中央文学との関わり | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 文学語学 | 6. 最初と最後の頁 122-129 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 中里理子 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 連濁を起す反復形の語のオノマトベ認定に関する考察 「しみじみ」「つくづく」の場合 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 佐賀大学全学教育機構紀要 | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34551/00023005 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 30 |
| 2. 論文標題 上方落語に見られる尊敬語名詞類の語用論的分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報 | 6. 最初と最後の頁 1-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 巻 23 |
| 2. 論文標題 上方落語に見られる尊敬語人称代名詞と名詞の語用論的分析 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 国際社会文化研究所紀要 [龍谷大学] | 6. 最初と最後の頁 1-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 小野正弘・竹田晃子・川崎めぐみ |
| 2. 発表標題 オノマトペ認定の差異とその基準 宮澤賢治『なめとこ山の熊』を題材に |
| 3. 学会等名 日本語学会 (ポスター発表) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小野正弘 |
| 2. 発表標題 ゆるる賢治オノマトペ 「ちゃんと」「ぢっと/じっと」 |
| 3. 学会等名 宮沢賢治学会イーハトーブセンター 2021年度夏季セミナー 「宮沢賢治とオノマトペ」 (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 竹田晃子 |
| 2. 発表標題 宮沢賢治作品と同時期方言資料の比較 オノマトペを中心に |
| 3. 学会等名 宮沢賢治学会イーハトーブセンター 2021年度夏季セミナー 「宮沢賢治とオノマトペ」 (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 川崎めぐみ |
| 2. 発表標題 『聴耳草紙』と賢治のオノマトペ表現の比較 |
| 3. 学会等名 宮沢賢治学会イーハトーブセンター 2021年度夏季セミナー 「宮沢賢治とオノマトペ」(招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 川崎めぐみ |
| 2. 発表標題 オノマトペの意味・使用法の地域的差異 |
| 3. 学会等名 表現学会第58回全国大会シンポジウム「テーマ：方言表現論の最前線」(招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 竹田晃子 |
| 2. 発表標題 東北方言における条件表現の形式 近代の方言変化を読み解く |
| 3. 学会等名 国立国語研究所シンポジウム「日本語文法研究のフロンティアー日本の言語・方言の対照研究を中心にー」(招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 角岡賢一 |
| 2. 発表標題 European general linguistics and semantics in the 1910's |
| 3. 学会等名 15th International Conference on the History of Linguistics (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計8件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 石井久美子・金子弘・新野直哉・小野正弘・関口安義・田中牧郎・玉村禎郎・飛田良文・斎藤達哉・鳴海伸一・塩田雄大・木下哲生 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 朝倉書店 | 5. 総ページ数 202 |
| 3. 書名 シリーズ日本語の語彙 6 近代の語彙 2 1 | |
| 1. 著者名 中野遙・黒川茉莉・八坂尚美・山田昌裕・木川あづさ・櫻井豪人・三好彰・遠藤佳那子・高橋洋成・田貝和子・小野春菜・今野真二・三浦直人・ヤロシユ島田むつみ・陳慧玲・高橋雄太・茗荷円・菊池そのみ・神作晋一・木下謙朗・櫛橋比早子・志波彩子・小野正弘 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 360 |
| 3. 書名 論究日本近代語 第2集 | |
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 くろしお出版 | 5. 総ページ数 275 |
| 3. 書名 上方落語にみられる待遇表現 | |
| 1. 著者名 有働玲子(編) / 有働玲子・竹田晃子・稲井達也・松村裕子・平林久美子・武井二郎・岡崎智子・川端秀成・品川孝子・柳田良雄・白井理・棚田明 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 科学研究費補助金研究成果報告書 | 5. 総ページ数 141 |
| 3. 書名 昭和20・30年代の文集を用いて多角的に子どもの表現力を探求する研究(文部科学省科学研究費助成事業(基盤研究(C))課題番号9K02683:研究成果報告集) | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小野正弘 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 イラストでわかるオノマトペじてん | 5. 総ページ数 160 |
| 3. 書名 成美堂出版 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 編者：小林隆・杉本妙子、著者：大野眞男・杉本妙子・児玉 忠・小林初夫・札埜和男・佐藤高司・加藤和夫・今村かほる・【竹田晃子】・小島聡子・山浦玄嗣・三樹陽介・茂手木清・金田章宏・山田敏弘・菊秀史・中本 謙・小林 隆・内間早俊・坂喜美佳・佐藤亜実・小原雄次郎・櫛引祐希子 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 くろしお出版 | 5. 総ページ数 306 |
| 3. 書名 実践方言学講座2 方言の教育と継承 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 編者：小林隆、著者：井上文子、尾崎喜光、櫛引祐希子、熊谷智子、小林隆、佐藤亜実、椎名渉子、篠崎晃一、【竹田晃子】、津田智史、中西太郎、松田美香 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 ひつじ書房 | 5. 総ページ数 345 |
| 3. 書名 全国調査による言語行動の方言学 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 角岡賢一 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 ジョン・ベンジャミンズ社 | 5. 総ページ数 179 |
| 3. 書名 Japanese Mood and Modality in Systemic Functional Linguistics | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 角岡 賢一 (KADOOKA Ken'ichi) (70278505) | 龍谷大学・経営学部・教授 (34316) | |
| 研究分担者 | 中里 理子 (NAKAZATO Michiko) (90313577) | 佐賀大学・教育学部・教授 (17201) | |
| 研究分担者 | 竹田 晃子 (TAKEDA Koko) (60423993) | 岩手大学・教育学部・准教授 (11201) | |
| 研究分担者 | 川崎 めぐみ (KAWASAKI Megumi) (60645810) | 名古屋学院大学・商学部・准教授 (33912) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |